

乾癬の疫学と遺伝的背景

福岡大学医学部皮膚科学教室 今福 信一

KEY WORDS

- 尋常性乾癬
- 疫学
- HLA
- 遺伝子多型
- 遺伝薬理学

Epidemiology and genetic background of psoriasis.

Shinichi Imafuku (教授)

I. はじめに ～乾癬のあらまし

乾癬は皮膚に慢性炎症性の角化の異常をもたらし、時に関節にも炎症を生じる疾患である。局面型乾癬の皮膚病変は、境界明瞭で扁平に隆起する紅色の局面、または一部環状の局面であり、銀白色の鱗屑を付着する。一般に、病変がない皮膚は正常にみえるのも大きな特徴の1つである。乾癬性関節炎は乾癬患者に生じやすい病態で、主に付着部炎である。乾癬の皮疹は物理的刺激が誘発するもの(ケブネル現象)もみられるが、本質的に“自発的に”出現する。つまり、何らかの原因、おそらく遺伝的または後天的な原因で、自発的に皮膚がこのような形態に変化するものといえる。本稿では、この乾癬を生み出す仕組みを疫学と遺伝的性質から考えてみる。

II. 乾癬患者の人種、性別と年齢

乾癬は世界各地でみられる疾患であるが、その頻度は国や人種によって大きな差がある。一般に、欧州の白人とその子孫に頻度が高く、幅はあるものの人口の2%強が乾癬をもつと考えられている。アジア人ではその頻度は少なく、大規模な人口ベースの研究ではおおむね0.3%とされる。一般的にアフリカ人では東アフリカ人に多く、西アフリカ人では少ない。在米の黒人に乾癬がやや少ないのは、そのほとんどが西アフリカ出身であるためとされている。また、サモア諸島の住民、南米の先住民には、大規模な住民調査で乾癬が1人もいないことも報告されている¹⁾。これらの事実は、乾癬に遺伝素因が大きく関与していることを示す。ヒトの祖先はアフリカで生まれ、その一部が6～7万年前にアフリカを出て、陸伝いに世界に広がったと考えら